

《成果①》
新規性・新たな知見

日本国際問題研究所

2024年度総合事業：経済安全保障の観点から我が国の強みや脆弱性を踏まえた、望ましい国際経済環境のあり方

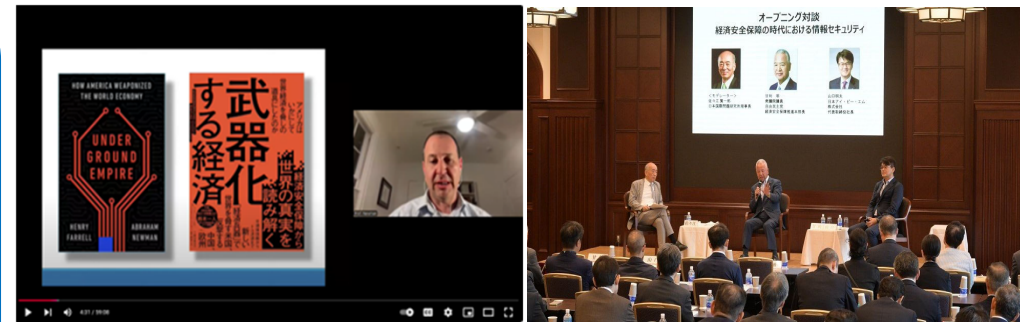


経済安全保障研究会

「相互依存の武器化」の進展に伴い、経済ネットワークと地政学リスクの評価方法の必要性を指摘。経済相互依存に関連する「経済制裁」について、対口経済制裁の効果とロシアの適応戦略、国際金融システムへの影響等の議論が展開された。

「先端技術と安全保障」研究会

経済安全保障を含む安全保障の観点から、サイバーセキュリティ分野での目標や官民連携の在り方等につき、政官財学及びシンクタンク間での議論を促進。人工知能、フィンテック及び量子科学技術を含む新興技術の活用について議論が展開され、米国や中国、ロシアに関する最新の動向につき知見が深められた。



経済安全保障分野を代表する有識者との連携

- ・ アブラハム・ニューマン・ジョージタウン大学教授
- ・ タイ・ミン・チェン・カリフォルニア大学教授
- ・ ワシリー・カシン・ロシア国立研究大学経済高等学院
- ・ トム・キーティング・英国王立防衛安全保障研究所CFS所長
- ・ ナビン・ギリシャンカー・米戦略国際問題研究所（CSIS）経済安全保障技術部長

企業と連携

IBMとの共催シンポジウム、TGDでの分科会

成果を集約し、展望と日本外交への提言を含む『戦略アウトルック』を発表

《成果②》 機動的な内外への発信

日本国際問題研究所

2024年度総合事業：経済安全保障の観点から我が国の強みや脆弱性を踏まえた、望ましい国際経済環境のあり方

JIIA



経済安全保障：武器化する経済

パネリスト



アブラハム・ニューマン
ジョージタウン大学 教授



飯田敬輔
東京大学大学院法学政治学研究科 教授



猪俣哲史
ジェトロ・アジア経済研究所
上席主任調査研究員



国問研戦略コメント

国問研戦略コメント (2024-06)

グローバル・バリューチェーン (GVC) 分析による中国産EV等に対する追加関税の影響

1024-09-10

朝田健介 (日本国際問題研究所研究員)



「国問研戦略コメント」は、日本国際問題研究所の研究員等が執筆し、国際情勢上重要な案件について、コメントや政策と関連付け
た分析をわかりやすくタイムリーに発信することを目的としています。

「国際問題」電子版 (ISSN:1881-0500)

INTERNATIONAL AFFAIRS

国際問題

4月 2024年4月 No.718 電子版

焦点：大国化するインドと「グローバル・サウス」

◎巻頭エッセイ◎ 台頭するインド 過去・現在・将来の展望 / 堀本武功

グローバル化と「民主主義の最先進国」インド / 吉田 修

峻路に立つインド外交 モディ政権下の10年の評価と課題 / 伊藤 融

安全保障から見たインド・中国関係の現在 / 伊豆山 真理

ナレンドラ・モディ政権下のインド経済と経済政策 / 佐藤 隆広

現代日印関係におけるグローバル・サウス / 溜 和敬

【第5回東京グローバル・ダイアログ】 動乱の世界：安定した国際安全保障と協力をどう築くか？

●Summary



AJISS-Commentary

Completing the Virtuous Circle: How Japan Can Overcome Its Lost
Decades Once and for All

11-01-2024

Naomi Fink (Chief Global Strategist, Nikko Asset Management)

「ウェビナー・シンポジウム開催」

- ・ 経済安全保障ウェビナーの開催
- ・ 第6回東京グローバルダイアログ (TGD6) では、企業と連携して、① 経済安全保障、②偽情報、③新興技術と現代戦の3つのセッション開催。

「国問研戦略コメント」・「国際問題」・ 「メディア出演」

- ・ 「中国産EVに対する追加関税」の分析をタイムリーに発信。
- ・ インドの経済・安全保障の動向の質の高い分析。
- ・ 日経新聞、Nikkei Asia、NRC (蘭) 等のメディア出演。

「英語による発信」

- ・ AJISS-Commentary、戦略アウトブック等を英語で発信。
- ・ ポーランド国際問題研究所、ハドソン研究所、ドーハ・フォーラム、日米安保セミナー等への登壇。

専門性の高い最新情勢の分析・政策提言を日英両言語で分かりやすく発信

《成果③》
シンクタンク・有識者
との連携（発信を含む）

日本国際問題研究所

2024年度総合事業：経済安全保障の観点から我が国の強みや
脆弱性を踏まえた、望ましい国際経済環境のあり方



「海外シンクタンクとの連携」

- 英国王立防衛安全保障研究所（RUSI）とのパートナーシップ強化。
日英サイバーセキュリティ協力に関するレポートの共同発表
対ロ制裁に関する専門家ラウンドテーブルを共催
- 米戦略国際問題研究所（CSIS）と「第31
回日米安保セミナー」を共催。

「ドーハ・フォーラム」

日本、米国、欧州、中東地域の有識
者とともに経済安全保障のパネル
セッションを共催。

駐日大使館等からの各種照会・情報提供依
頼への対応を通じた貢献等。

「合同研究会」

- ・ 「ウクライナ戦争後のロシアの地経学戦略のシフト」
講師
タイ・ミン・チェン・カリフォルニア大学教授
ワシリー・カシン・ロシア国立研究大学経済高等学院
- ・ 「昨今のロシア・中国に関する経済制裁と先端技術」
講師
トム・キーティング・英国王立防衛安全保障研究所CFS所長

- ・ 偽情報分野では、台湾、チェコ、中部アフリ
カ、米国など幅広い地域の有識者や報道関係
者と意見交換。
- ・ ブラジルの国際関係センターやシンクタンク
FGVとの意見交換。

海外主要シンクタンク・有識者との活発な意見交換・ウェビナー開催により
グローバルな知的ネットワークの構築と対外発信